REGULAR
CLOSE UP

放射線診断科

放射線診断科
部長
宮崎　知保子

平成8年より画像診療科として、画像診断領域が独立しておりますが、平成21年春より放射線診断科と改称されました。 放射線診断専門医、核医学専門医、ＩＶＲ専門医などの資格を有する医師が2名と後期研修医2名、また2-3ヶ月毎のローテーションの初期研修医でＣＴ、ＭＲＩ、核医学、ＵＳ、血管造影などの検査業務にたずさわっています。検査をお申し込み頂きましたら、検査の目的に従って、まずどのような検査を構成するかを診断医が考えます。造影が必要か、1～3ｍｍといった薄いスライスにするか、dynamicや造影の平衡相などが必要か、MRIではT1かT2か、脂肪抑制か、Ax/Cor/Sagかなど様々な組合せのなかから適切な検査法を考えます。検査当日は、診断医が患者さんに検査内容や造影剤の副作用などについて説明を行います。その後検査室で担当看護師および放射線技師により検査が行われます。検査終了後、診断医が撮像された画像を読影し、画像とレポートを速やかにお届けしております。また甲状腺機能亢進症や転移性骨腫瘍のアイソトープ治療もおこなっております。

近年、CT装置の普及はめざましく、日本の保有台数は世界一であります。しかし、医療被曝も大きな問題になっており、胸部CT検査を受けた方は胸部X線検査を受けた方と比較して50～100倍の放射線量に被爆しています。また多相腹部・骨盤検査では20～30ｍSｖにもなります。CT画像から得られる情報量は多大で多くのメリットがありますが、CT検査から最大の便益が得られかつ被曝を最小にとどめる工夫が必要です。

私たち診断専門医は放射線技師、看護師、クラークと4輪タッグを組み、被曝を減らす努力をしつつ、安全かつ必要十分な質の高い検査を実施することを目標としております。検査に関してご不明な点は、どうぞ直接私たち（宮崎知保子、臼渕浩明）にご相談ください。また札幌市内の医療機関は当院に設置されています札幌市医師会地域医療室を従来通りご利用ください。それ以外の先生方は、地域連携センターにご連絡いただければ幸いです。

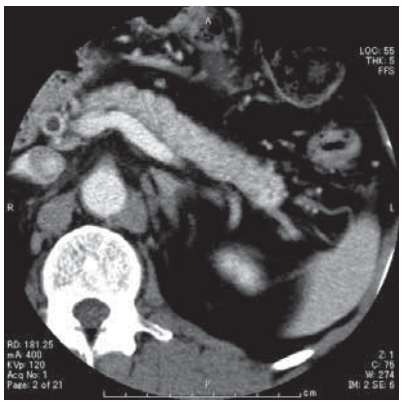
早朝カンファレンス
左より：臼渕浩明副部長・原田太以佑後期研修医
田村佳奈恵初期研修医・宮崎部長
藪崎哲史後期研修医

クイズ

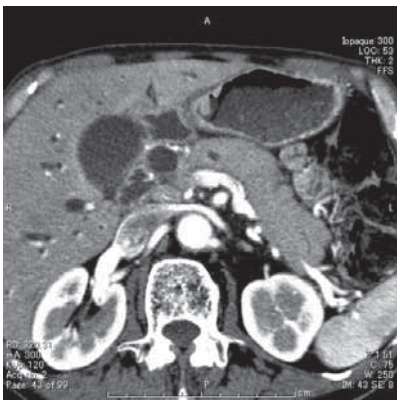
さて診断は？

同一疾患です!!

★答えは最終ページ★



症例１　68歳　男性：糖尿病・高血圧



症例２　75歳　男性：糖尿病